

(5)今後の生涯学習・社会教育事業について

グループワーク① 家庭教育支援 発言要旨

○学びの機会や相談の機会について

花輪委員

- ・ 多くの母親が仕事に従事している中、PTA 研修会なども含め、参加状況はどのようになっているか。

佐藤委員

- ・ 新庄市の例であるが、日新小では、授業参観ではなく、祖父母参観として、父母だけでなく、多くの方に参加いただいている。家庭内でも参加の内容を話題にしている。地域の方にも「見に来てください」とPRするような授業参観があってもいい。

矢口委員

- ・ 読み聞かせや授業参観は、母親の出席が多いが、学級懇談会になると参加率が低くなる。悩みなどを相談したいが、そのアプローチの仕方（誰に、どうやって、どんな機会に）を知らない保護者が多い。
相談会や研修会の案内をしても親に届かないこともある。お知らせ（PR）の方法をどのようにするかが課題である。

花輪委員

- ・ 今後、授業時間が45分から40分となり、子どもの帰る時間が早くなる。子どもたちの受け皿をどうするかが課題となる。中学生も部活動の参加も任意になっている。
- ・ 共働きの家庭が多く、放課後の子どもたちにとって家庭は受け皿にならない。学童などの時間が長くなることが考えられる。

事務局

- ・ 放課後子ども教室や放課後児童クラブ（学童）での過ごし方が大切になってくる。
金山町では「森の子ども図書コーナー」を設けている。「放課後子ども教室」を、年間200日実施し、放課後の子どもたちの居場所としている。部活動が地域クラブに移行する中、小学生も参加できる総合型のクラブでの活動や子どもが教室に残れる居場所づくりの必要性なども考えていかなければならない。

花輪委員

- ・ （放課後の過ごし方について）相談したいが、どうして良いか分からない保護者が多い。学校の中に、相談できる場所を行政と協力して確保していかなければならない。

佐藤委員

- ・ 自分は以前、日新小（新庄市）で、「子どもふれあいサポーター」としても活動していた。養護教諭からPRしてもらい、保護者からの相談にも応じている。地域と学校が連携していくことが大切である。

事務局

- ・ 大郷小（山形市）にも、「ほっとるうむ」という交流の場がある。毎週火曜日（9時半から2時間程度）に、校内の子どもたちはもちろん、地域の方々も誰でも集まれる。こうした気軽に話ができる場が求められている。

○広報について

事務局

- ・ 最上地区では、年に2回、家庭教育支援フォーラムを行っているが、そのうちの1回をPTAと連携して全ての保護者を対象に実施している。保護者の立場に立って、参加しやすいように、土曜開催で、対面でもオンラインでも参加できるようにしている。父親の参加も多い。オンラインで行うことで、会場まで足を運ぶことが難しい保護者も参加（視聴）しやすくなる。誰もが参加しやすい形式で行うことと併せて、PRが大事になると考えている。

矢口委員

- ・ せっかく良い企画でも、知らないともったいない。公民館に来館した方にはどんどん案内し、人伝えでもお伝えしている。個人的なSNSも利用している。

佐藤委員

- ・ 新庄市では、各学校の読み聞かせサークルで参加を呼びかけ、学校やサークルの枠を超えて交流できる場を広げている。

事務局

- ・ 相談機会を増やしていくために、家庭教育支援と読み聞かせ活動は関連させやすく、保護者の集まる1つのよい機会と捉えている。読み聞かせ活動の後に、相談会などの交流の場を設けるなどできないかと考えている。例えば、学校で、読み聞かせサークルの方やボランティア等様々な方が、保護者の相談相手になれると考えられ、行政などの窓口にアクセスするよりもハードルが低く、気軽に相談できる可能性がある。そうした場が作れないか考えていきたい。